沖縄県

考えよう。みんなが暮らしやすいまちづくり。

ココロつながるプロジェクト

杖を使っている人の中には
転ばないよう
ゆっくり歩いている人がいます。
ドライバーは
渡り終えるまでまちましょう。

身体障害者補助犬は、
社会のマナーが守れるので、
飲食店やスーパーにも
同伴できます。

バスやモノレールの中で
ハート・プラスマーク、マタニティマーク、
ヘルプマークを
付けている人を見かけたら
席を譲りましょう。

コミュニケーションが
苦手な人と話をするときは、
自分の意見は控えめにして、
相手が何を伝えたいのか、
しっかり聞くようにしましょう。

階段がスロープになっていたり
入り口が広いなど
みんなが使いやすい建物を
増やしていきましょう。

障害者等用駐車スペースがあると、
みんなが安心して外出できます。

外見から障害がわかりにくい発達障害。
パニックや衝動的な行動など
障害によって生じる行動も
理解しましょう。

聴覚障害のある人のコミュニケーション方法は、
それぞれの聞こえ方によって、
口話、読話、筆談、手話など様々です。
相手の様子や反応を見て、
筆談やジェスチャーを加えるなど、
視覚的に伝える工夫をしてみましょう。

エレベーターや横断歩道の
押しボタンなどで、
車いす使用者の手が届かないときには
「ボタンを押しましょうか」「何階ですか」
と声をかけ、
代わりにボタンを押しましょう。

知的障害のある人の中には、
初めての出来事や状況の変化への対応が
苦手な人がいます。
相手の不安や緊張を解きほぐすために、
まずは優しく声をかけましょう。

困っている様子の人がいたら、
まずは「こんにちは」などのあいさつや
「何かお困りではないですか？」と
声をかけましょう。

点字ブロックの上に物を置くなどの
マナー違反がなくなると、
みんなが安心して歩けます。